

ようこそ 第1回丸亀まちづくりラボへ!



第1回 ～協働について考える～

開会・市民生活部長挨拶

「丸亀まちづくりラボ」と
丸亀市のこれまでの取り組み等について
生涯学習課長 谷本

「なぜ協働によるまちづくりが必要か」
香川大学地域人材共創センター
大村 隆史さん

ワークショップ

自己紹介・協働のイメージについて
マルタス前センター長 佐藤 光さん

写真撮影・閉会

7月8日（土）を初回に、8月19日（土）の第4回まで、全部で4回の「丸亀まちづくりラボ」を開催します。このワークショップには、コミュニティ関係者も含む市民、市民活動団体、事業所の方、丸亀市職員やマルタス職員など、様々な立場の方々に応募いただき、今回は31名が参加しました。参加者同士の対話を通して楽しく考え、みなさまの協働に対するイメージを少しでも共通のものにできればと思います。

「まちづくりラボ」と丸亀市のこれまでの取り組みを紹介

最初に、生涯学習課課長 谷本智子から、「丸亀まちづくりラボ」の目的と、協働に関するこれまでの丸亀市の取り組みについて紹介しました。

新しい協働推進計画
の策定に向けて

「まちづくりラボ」の4つの目的

- 1.協働とは何か、なぜ協働が必要なのかをみなさまと一緒に考える。
- 2.「協働のまちづくりに関するアンケート」の結果から、協働に関する現状や認識を確認する。
- 3.協働によるまちづくりが行われている2040年の丸亀のまちの姿を共有する。
- 4.目指す丸亀のまちの姿を実現させるために必要な取り組みを考える。

協働に関する丸亀市のこれまでの取り組み

市民活動団体等の育成を目的に、平成20年度より「丸亀市市民活動ステップアップ補助事業」を行っています。これは、市民活動者が、新たな市民活動や、その活動の幅を広げる事業を実施する際の経費の一部を補助するという事業で、令和4年度には5事業が対象となりました。

また、活動拠点の整備・充実として、各地区コミュニティセンターを順次整備してきたほか、令和3年3月には、本市の協働のまちづくりの拠点施設として、丸亀市市民交流活動センター（愛称：マルタス）が開館しました。

開館以降、マルタスのオープンな空間を舞台に、多くの市民活動が年間を通して行われています。



ミニ講義 「なぜ協働によるまちづくりが必要なのか」

講師：香川大学地域人材共創センター講師 大村隆史さん

「協働」とは

まず協働とは、同じ目的のために協力して働くこと、市民と行政の新たな関係のあり方を示す言葉です。この「協働」によって地域コミュニティの継続のための課題解決を民主的に進める、つまり自分たちのまちを自分たちでつくることができるというメリットがあります。

協働の6つの原則

協働には「対等」「自主性の尊重」「自立化」「相互理解」「目的共有」「公開」の6つの原則があり、市民と行政の関係を見直すチェック項目、協働の活かしかどころを探す視点としても有効です。

まちづくりにとって有効な手段である協働

近年は丸亀市の協働推進計画のようなまちづくりのための計画のプロセスに、民意を取り入れていくことが一般化しています。つまり、まちづくりには行政だけでなく市民の協力が必要不可欠であり、そのための手段として「協働」が注目されるのです。「協働」は人を育て、まちを育てる可能性のある取り組みといえます。



ワークショップ ファシリテーター：マルタス前センター長 佐藤光さん

30分間のワークショップでは、今回の講座を受けての振り返り、自己紹介と意見交換を行いました。まず最初に自己紹介シートを記入し、それぞれ4~6人のグループで自己紹介をしました。名前やニックネーム、所属や肩書、なぜまちづくりラボに参加したのかを発表し合いました。次に、「偶然にも」や「でも」、「そして」などの接続詞が書かれた接続詞カードを使い、大村さんの講義を聞く前と、聞いた後の協働へのイメージのギャップを話し合いました。ここでは、「協働についてもっと知りたい」や「課題の共有が重要だと思う」などの意見が出されました。



第1回の丸亀まちづくりラボでは「ラボ」の意味である、「研究室」のとおり、講義を聞くことを中心に学ぶという回となりました。次回からはグループワークや対話を通して参加者同士で楽しくコミュニケーションをとりながら考える回となります。また、第2回はグラフィックレコーダーの岩下紗矢香さんをお招きし、グラフィックレコーディングをしていただきます。みなさま、お楽しみに！

